
ある能力者からの手紙

Mr.あいう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある能力者からの手紙

【Nコード】

N8056H

【作者名】

Mr. あいう

【あらすじ】

これは誰か特定の人に向けて出された手紙ではありません。今、この手紙を読もうとしている「あなた」に向けての手紙です。

これを読んだあなたへ、

この手紙は、誰かに向けて出されたものではありません。

この手紙を読んでいる「あなた」に向けて出されたものです。

もしあなたが今の生活に満足していて、安定を望むならば、

この手紙を読むことはお勧めしません。

ですが、もしあなたが今の生活に不満を抱き、あるいは変化を望むならば、

この手紙を読むことをお勧めします。

覚悟は良いですか？

この手紙を読めば、

人生が悪い方向にも、

いい方向にも、

どちらにも転びます。

どうやら、いいようですね。

それでは、私の能力について、お話ししよう・・・

数年前、私はある能力が自分にあることに気がつきました。

最初は、ほんのくだらないこと。

あのころ私は彼女と同棲を始めたばかりで、お互いに気を使うことばかりでした。

お互いの違った面も見えてきて、彼女は、自分の歯ブラシを使われたというだけで、

真剣に怒り出して別れ話まで切り出してきたことありましたし、

私は私で、味噌汁にかぼちゃを入れる彼女が信じられませんでした。

スイマセン、話がそれましたね。

とにかく、そんなある日のことです。

彼女が仕事から帰ってきて、ダルダルしてました。

そして、彼女はこちらを見て、ニコツと笑い、

「ねえ、肩揉んで」と言ってきました。

そういえば、彼女が始めて私に甘えたのが、あの時だと思えます。

言われたときは驚きましたが、私はもちろん彼女の肩を揉んであげました。

しっかりと、思いを込めて。

その日は、二人とも早めに寝ました。

次の朝、起きると彼女が隣にいなかったたので、リビングに行きました。

するとなんと、そこには自分の股の間から

顔を出している信じられないくらい体の柔らかい女性がいました。

その女は僕と目が合うと、私の彼女みたいにニコツと笑って、

「おはよ、起きたの？」といいました。

明らかにビクリ人間みたいな姿のあれが、
私の彼女だと気づくまで、しばらくかかりました・・・

やがて私のほうも落ちついて、

彼女にそんな特技があったのをなぜ黙っていたかたずねましたが、

「別に、今日はなんだか体の調子がいいと思ってなんかやってみたら、できたの」

まあ、皆さんもそうでしょうが、そんな説明で納得するはずもなく、
私がしばらく問い詰めていたのですが、

「なに！朝起きたら体が柔らかくなってるんですが、そんなにおかしいの！」

と涙まじりで叫ばれたため、その発言に突っ込むこともできず、
しばらくして彼女は出て行ってしまいました。

ともあれ、この奇妙な現象について、私は調べてみることにしました。

何せ、この現象せいで彼女が出て行ってしまったのです。

私だって、これから先付き合う彼女が片っ端から、軟体タコ人間になるのは

本当にごめんこうむりたいでしたから。

さて、あの日何か変わった事があったかと考えてみると、
まっさきに思いつくのは彼女の肩を揉んでやったことでした。
そこで同僚に頼んで肩を揉ませてもらうことにしました。

「お前にそつちのけがあつたとはなあ・・・人間見た目じゃわかんないもんだな」

と右手を左ほほに添えながら軽口をたたく同僚に対し、一発蹴りを加えてから、

肩を揉み始めました。

しっかりと、思いを込めて。

翌朝、会社に出勤すると、同僚がひどい目にあっていました。

「俺が家を出たときはまだ全然の雨気配もなかったんだぜ？」と、ネクタイを絞りながら言う同僚を見て、

「何か変わった事がなかったか？」と聞くと、

「あのさ、それびしょ濡れの同僚に言うこと？俺に『急に雨に降られました』って言わせたいの？ひどくない、それ」

まあ、当然の反応でした。

私は彼女を失ったすぐ後に、仲のいい同僚を失うことのないように謝りました。

ですが、肩揉みに原因があつたわけではないとわかり、内心残念でした。

一週間後、一週間連続で社内で彼だけが通勤途中突然雨に降られるというギネス級の記録を打ち立てた同僚を見て、考えを改めました。

間違いなく、私には力がある。そう確信しました。

その後の私の行動は、傍から見ると馬鹿みたいな行為だったでしょう。

ですが、この手紙を読んでいるあなたになら、わかるはずです。

それから私は毎晩、自分の肩を揉み続けました。
しっかりと、思いを込めて。

・・・ですが、一週間ほど続けても一向に自分に能力がついた感じがありません。
さらに一週間、続けてみました。
しっかりと、思いを込めて。

・・・結果、一ヶ月間逆に肩を揉んで肩がこってしまつくらいしっかりと揉み続けたのですが、
残念ながら自分に能力はつかないようです。

・・・さて、ここまで読んでどういうことが大体察しはついたと思います。

やめたい方は、ご自由に、

・・・
・・・

・・・・・・さて、

読む覚悟があるようなので、先を続けましょう。

自分の能力を自覚してからの私の能力の発達は、めざましいものになりました。

取引先の人と、しっかりと、思いをこめて握手を試みたところ、翌月、その人が株で大当たりして、自分の会社を持つようになったとの事でした。

本人曰く、「僕には未来が手に取るようにわかるんだ」との事でした。

通勤電車の中で、ある女性にしっかりと、思いを込めて電車から降りるまでずっと

その女性を見つめていたら、僕が降りるときにはその女性はまるで90歳の

老婆のような外見になっていました。

その女性がその後どうなったかは知りませんが、彼女には悪いことをしました。

ある売れないミステリー作家に、しっかりと、思いを込めてファンレターを出したところ、

その作家の書いたとおりの殺人事件が起きて、

その作家はそれ以来書くのをやめてしまいました。

実にもつたいたない。その能力を使えば、一躍有名になれたかもしれないのに。

ここまで書けばわかるでしょう。これは実験です。

この手紙を読んだあなたには、果たして能力が備わるのか。

例えば、空を飛ぶ能力がついたり。

例えば、ほぼすべての食材にアレルギー症状が出たり。

例えば、テレフォンカードの残りが、突然増えていたり。

例えば、世界を終わらせたり。

目をつぶって、思い切り念じてください。

何か見えてきませんか？ 誰かの命が終わった感覚は？

あるいは、この世界はもうあなたの思う通りかも。

ある能力者から、しっかりと、思いを込めて

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8056h/>

ある能力者からの手紙

2010年12月25日02時03分発行